

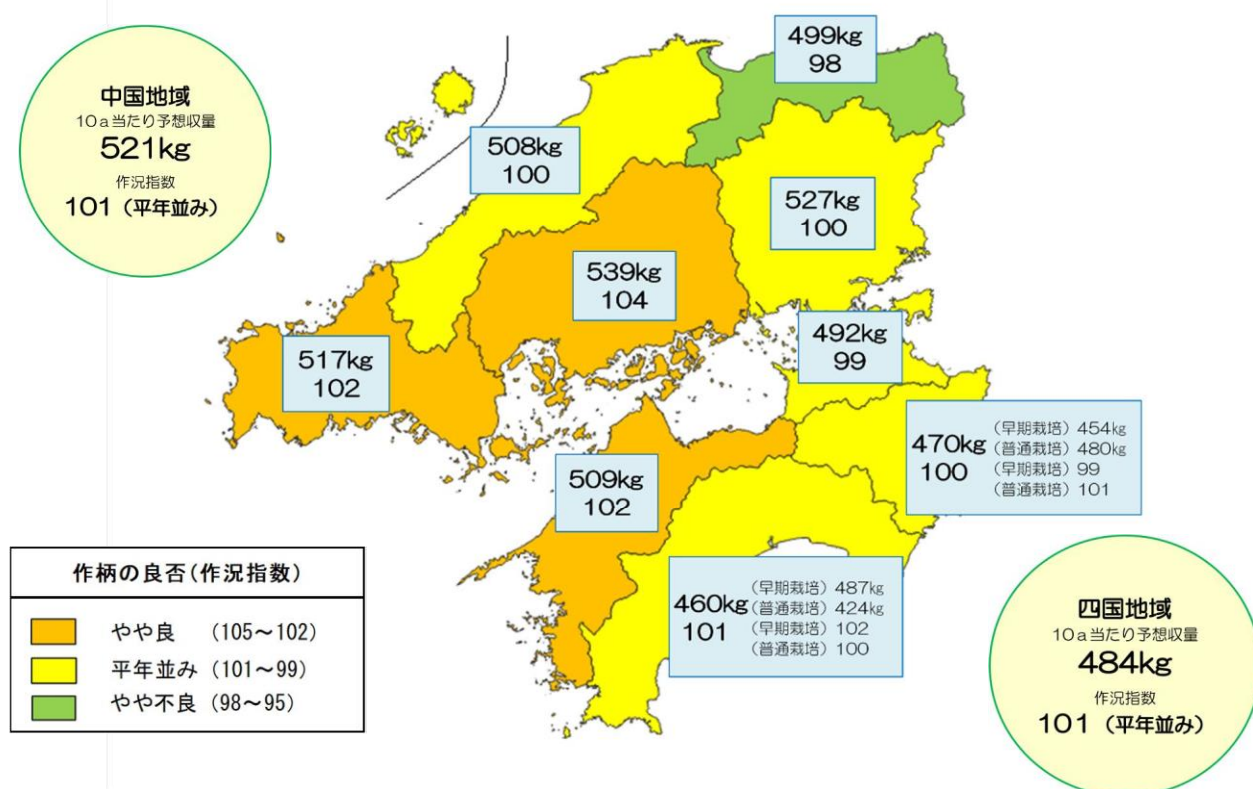
作物統計調査 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量 (中国地域・四国地域)

－ 10a 当たり予想収量は中国地域521kg、四国地域484kgの見込み －

【調査結果の概要】

- 1 令和6年産水稻の地域別の作付面積（青刈り面積を含む。）は、中国地域で10万100ha、四国地域で4万6,000haが見込まれる。うち主食用作付面積は、中国地域で9万400ha、四国地域で4万2,300haが見込まれる。
- 2 9月25日現在における地域別の10a 当たり予想収量は、中国地域で521kg、四国地域で484kgが見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの地域別の作況指数は、中国地域、四国地域ともに101の「平年並み」が見込まれる。
- 3 主食用作付面積に10a 当たり予想収量を乗じた地域別の予想収穫量（主食用）は、中国地域で47万1,000 t、四国地域で20万5,200 tが見込まれる。

図1 地域別・県別10a 当たり予想収量及び作況指数（9月25日現在）



- 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積であり、主食用作付面積とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である（22ページの【参考1】参照）。
- 10a 当たり予想収量及び予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 10a 当たり予想収量及び予想収量は、収穫を終えた地域では刈取り実測による結果であるが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定した結果である。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。
- 作況指数は、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率であり、県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。
- 徳島県及び高知県の作況指数は早期栽培、普通栽培を合算したものである。

4 中国地域の作柄を県別に見ると、広島県及び山口県は「やや良」、島根県及び岡山県は「平年並み」、鳥取県は「やや不良」が見込まれる。

《中国地域各県の良否の要因》

◆やや良・・・広島県（作況指数104）及び山口県（作況指数102）

7月下旬以降、気温及び日照時間ともに平年を上回って推移しており、登熟が「やや良」と見込まれるためである。（広島県）

7月上旬から8月上旬の気温が平年を上回って推移したこと等により、1穂当たりもみ数が「多い」となったためである。（山口県）

◆やや不良・・・鳥取県（作況指数98）

5月下旬から6月上旬にかけての日照不足等が影響し、穂数が「少ない」となったためである。

5 四国地域の作柄を県別に見ると、早期栽培では高知県が「やや良」、徳島県が「平年並み」となった。

普通栽培では、愛媛県は「やや良」、徳島県、香川県及び高知県は「平年並み」が見込まれる。

《四国地域各県の良否の要因》

〔早期栽培〕

◆やや良・・・高知県（作況指数102）

7月上旬以降、気温及び日照時間ともにおおむね平年を上回っており、登熟が「やや良」となったためである。

〔普通栽培〕

◆やや良・・・愛媛県（作況指数102）

8月上旬以降、気温及び日照時間ともにおおむね平年を上回っており、登熟が「やや良」と見込まれるためである。

◎ 累年データ

水稻の年次別推移（中国地域・四国地域）

区 分	作付面積 (青刈り面積を含む。)	子実用	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	ha	kg	t	ha	t	
中国地域 平成26年産	116,300	112,600	495	556,900	108,700	536,600	96
27	114,500	108,100	503	543,900	104,100	523,400	97
28	113,200	106,000	526	557,300	102,200	537,900	102
29	111,700	104,300	530	552,400	101,200	536,100	103
30	110,200	103,700	519	537,800	101,100	524,200	101
令和元	108,000	102,100	503	513,200	99,400	499,800	97
2	106,900	101,200	484	489,700	98,200	475,700	92
3	105,600	98,800	517	511,000	95,900	496,100	99
4	103,500	95,800	524	501,600	92,800	486,400	101
5	101,700	94,000	514	483,100	90,900	467,800	101
6 (概数値)	100,100	..	521	..	90,400	471,000	101
四国地域 平成26年産	56,500	55,300	463	256,200	54,500	253,000	96
27	55,200	52,100	466	242,800	51,700	241,000	96
28	54,100	50,900	492	250,500	50,500	248,700	102
29	52,900	49,900	486	242,400	49,500	241,000	101
30	51,900	49,300	473	233,400	49,000	232,000	98
令和元	50,800	48,300	457	220,700	47,800	218,500	94
2	49,900	47,400	470	222,800	46,900	219,900	96
3	49,000	45,900	482	221,400	45,400	219,900	101
4	48,000	44,600	497	221,600	44,000	218,400	103
5	46,900	43,100	482	207,700	42,700	205,500	101
6 (概数値)	46,000	..	484	..	42,300	205,200	101

- 注： 1 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積である。
- 2 作付面積（子実用）とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。
- 3 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量（令和6年産は予想）である。
- 4 主食用作付面積とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 5 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率であり、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までは、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降は、県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
- 6 「..」は、未発表であることを示している。
- 7 注意書きについては、次ページ以降の累年統計表において同じ。

【調査結果（県別作柄概況）】

1 鳥取県

(1) 作付面積

作付面積（青刈り面積を含む。）は1万2,900ha（前年産との差：△200ha）が見込まれる。

うち主食用作付面積は1万1,600ha（前年産との差：△100ha）が見込まれる。

(2) 作柄概況

5月下旬から6月上旬の気温及び日照時間が平年を下回って推移したことや、6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分けつが抑制され穂数は「少ない」となった。穂数が少ないことによる補償作用等により、1穂当たりもみ数は「やや多い」となったものの、全もみ数は「やや少ない」となった。全もみ数が少なかったことによる補償作用に加え、7月下旬以降も気温及び日照時間が平年を上回って推移しており、登熟は「やや良」が見込まれる。

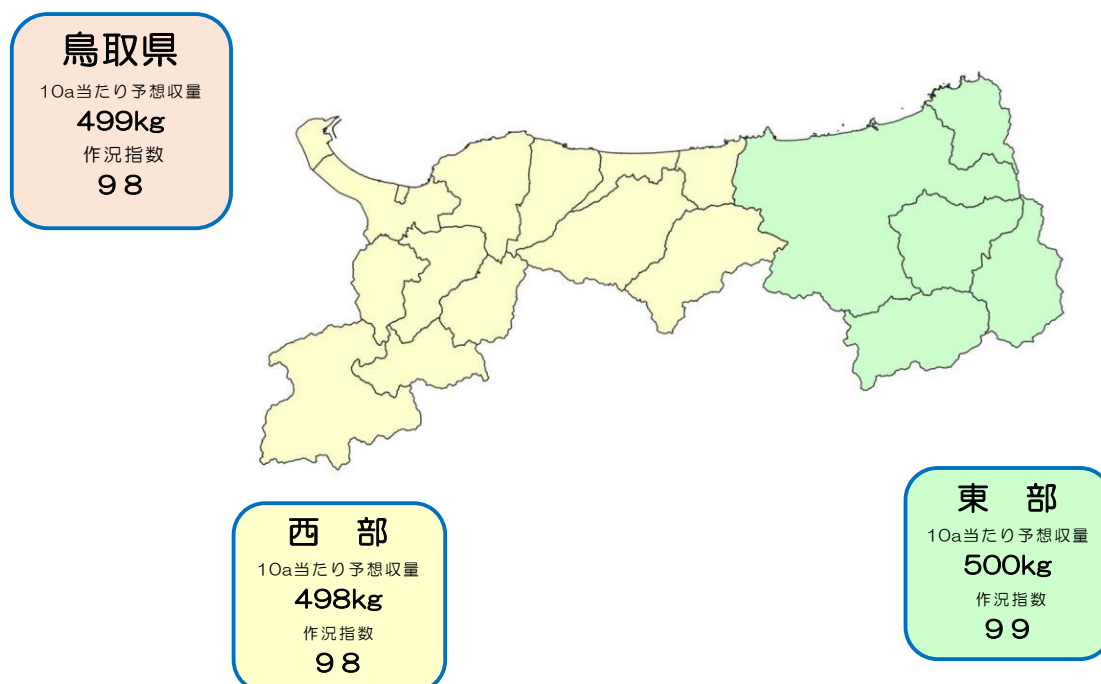
9月25日現在における10a当たり予想収量は499kg（前年産との差：+18kg）、作柄表示地帯別では、東部で500kg（前年産との差：+22kg）、西部で498kg（同：+15kg）が見込まれる。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は98の「やや不良」、作柄表示地帯別では、東部は99の「平年並み」、西部は98の「やや不良」が見込まれる。

(3) 予想収穫量（主食用）

予想収穫量（主食用）は、5万7,900t（前年産との差：+1,600t）が見込まれる。

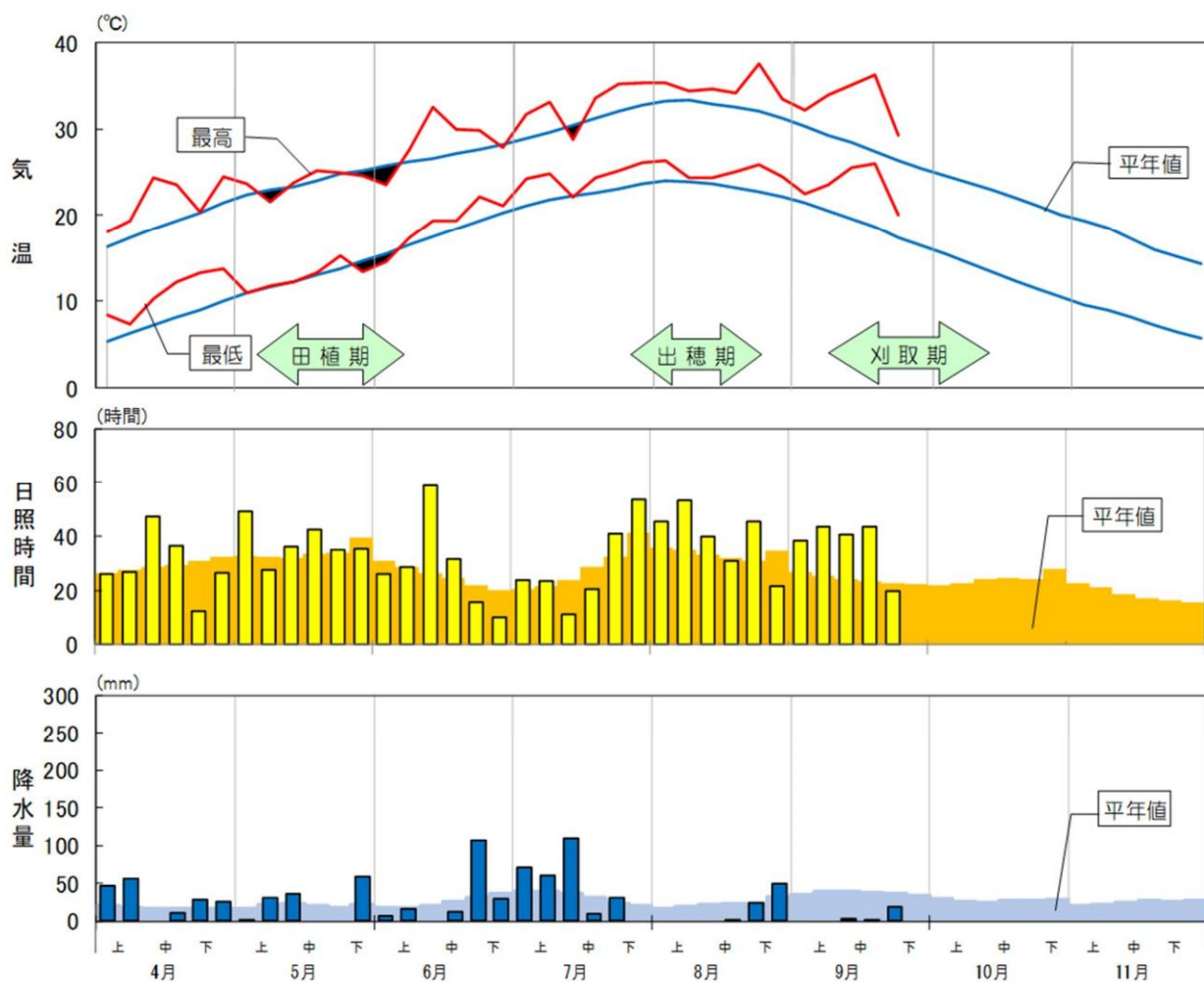
図2 作柄表示地帯別 10a 当たり予想収量及び作況指数（9月25日現在）



◎ 累年データ

区 分	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha				t	
鳥取県 平成26年産	14,500	13,600	498	67,700	13,000	64,700	97
27	14,300	12,900	512	66,000	12,400	63,500	99
28	14,200	12,700	522	66,300	12,500	65,300	102
29	14,100	12,600	520	65,500	12,400	64,500	101
30	13,900	12,800	498	63,700	12,700	63,200	97
令和元	13,800	12,700	514	65,300	12,600	64,800	100
2	13,700	12,900	512	66,000	12,800	65,500	100
3	13,600	12,600	505	63,600	12,400	62,600	98
4	13,300	12,100	514	62,200	12,000	61,700	100
5	13,100	11,900	481	57,200	11,700	56,300	95
6 (概数値)	12,900	..	499	..	11,600	57,900	98

◎ 半旬別気象図（観測地点：鳥取市）



資料：気象庁『アメダスデータ』（以下同じ。）

注：耕種期日は2019年から2023年調査結果の5か年平均値（以下同じ。）

2 島根県

(1) 作付面積

作付面積（青刈り面積を含む。）は1万7,500ha（前年産との差：△200ha）が見込まれる。

うち主食用作付面積は1万5,700ha（前年産との差：△200ha）が見込まれる。

(2) 作柄概況

6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分げつが抑制され穂数は「やや少ない」となった。穂数がやや少ないことによる補償作用等により、1穂当たりもみ数は「やや多い」となり、全もみ数は「平年並み」となった。7月下旬以降も気温及び日照時間が平年を上回って推移しており、登熟は「やや良」が見込まれる。

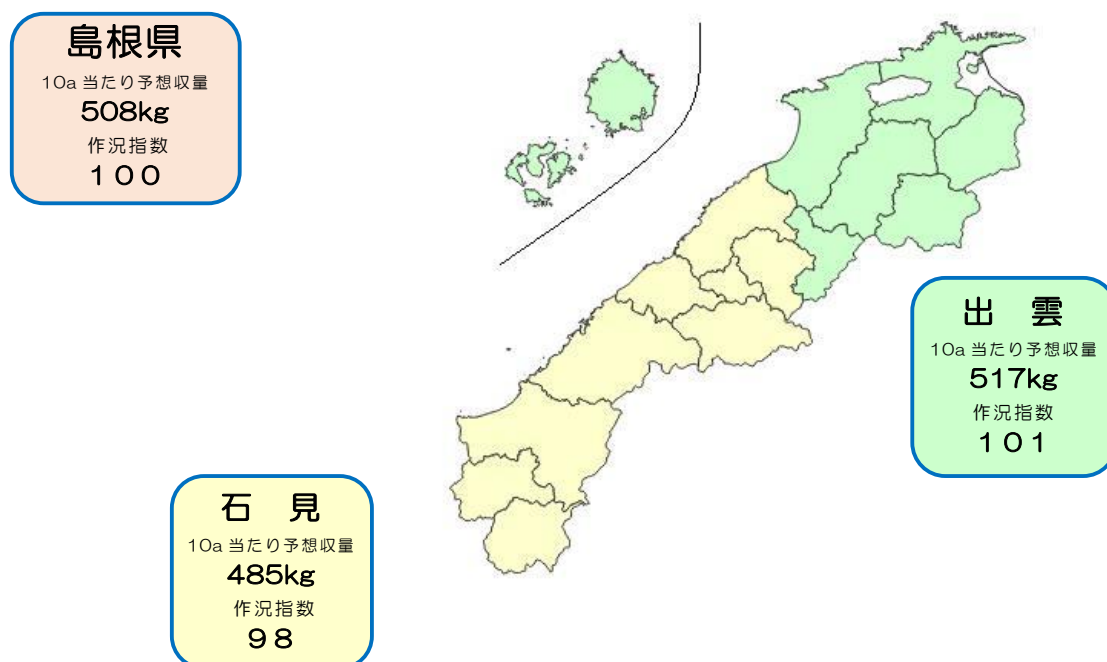
9月25日現在における10a当たり予想収量は508kg（前年産との差：△7kg）、作柄表示地帯別では、出雲で517kg（同：△8kg）、石見で485kg（同：△5kg）が見込まれる。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.90mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は100の「平年並み」、作柄表示地帯別では、出雲は101の「平年並み」、石見は98の「やや不良」が見込まれる。

(3) 予想収穫量（主食用）

予想収穫量（主食用）は、7万9,800t（前年産との差：△2,100t）が見込まれる。

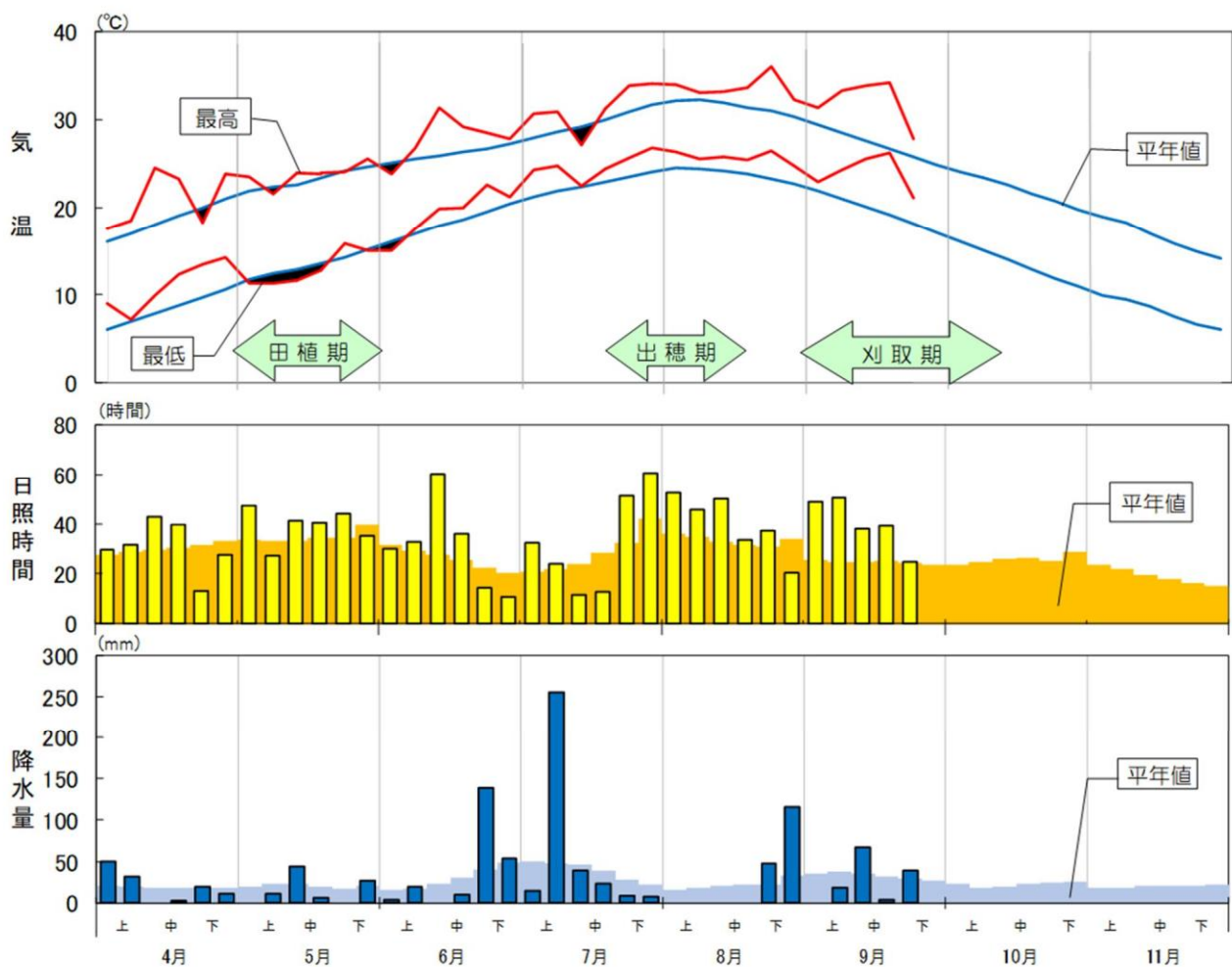
図3 作柄表示地帯別 10a 当たり予想収量及び作況指数（9月25日現在）



◎ 累年データ

区 分	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
島根県 平成26年産	19,700	18,600	503	93,600	18,200	91,500	99
27	19,500	17,900	503	90,000	17,500	88,000	98
28	19,400	17,700	528	93,500	17,300	91,300	104
29	19,200	17,500	519	90,800	17,200	89,300	102
30	19,000	17,500	524	91,700	17,200	90,100	103
令和元	18,600	17,300	506	87,500	16,900	85,500	99
2	18,400	17,100	511	87,400	16,800	85,800	99
3	18,200	16,800	521	87,500	16,500	86,000	100
4	17,900	16,400	519	85,100	16,100	83,600	101
5	17,700	16,100	515	82,900	15,900	81,900	101
6 (概数値)	17,500	..	508	..	15,700	79,800	100

◎ 半旬別気象図（観測地点：松江市）



3 岡山県

(1) 作付面積

作付面積（青刈り面積を含む。）は2万9,700ha（前年産との差：△400ha）が見込まれる。

うち主食用作付面積は2万7,200ha（前年産との差：+300ha）が見込まれる。

(2) 作柄概況

5月下旬から6月上旬の気温が平年を下回って推移したことや、6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分けつが抑制され穂数は「少ない」となった。7月上旬から下旬の気温がおおむね平年を上回って推移したことや、穂数が少ないことによる補償作用により、1穂当たりもみ数は「多い」となり、全もみ数は「平年並み」となった。8月上旬以降も気温及び日照時間が平年を上回って推移しており、登熟は「やや良」が見込まれる。

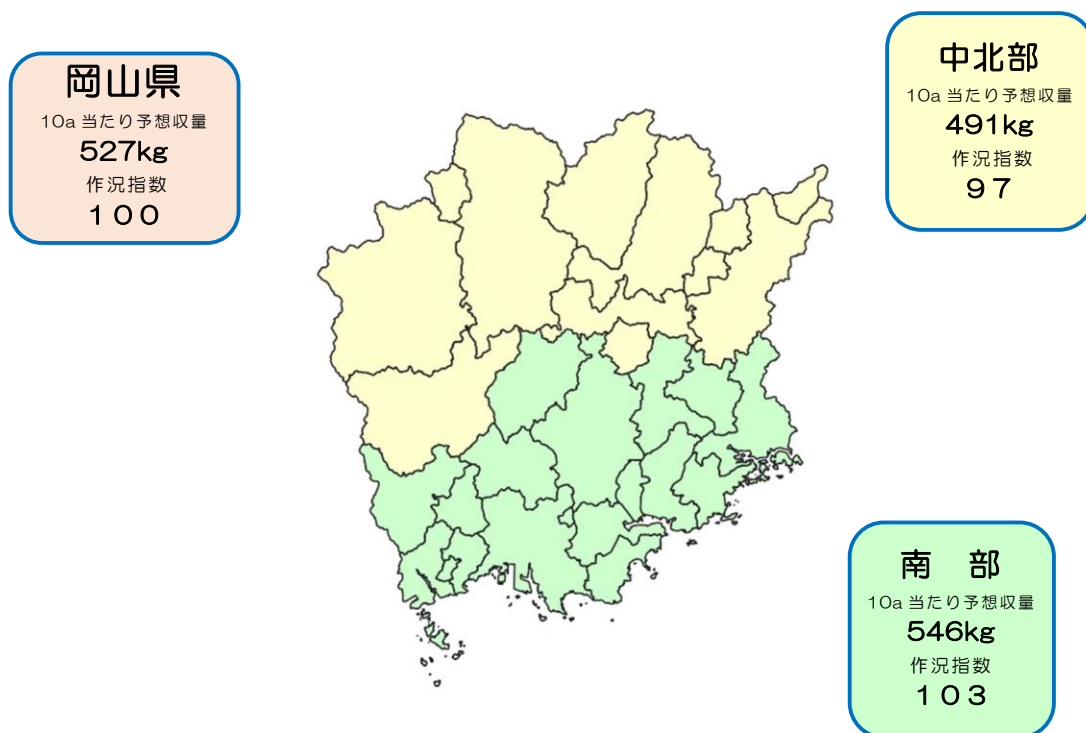
9月25日現在における10a当たり予想収量は527kg（前年産との差：+13kg）、作柄表示地帯別では、南部で546kg（前年産との差：+16kg）、中北部で491kg（同：+4kg）が見込まれる。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は100の「平年並み」、作柄表示地帯別では、南部は103の「やや良」、中北部は97の「やや不良」が見込まれる。

(3) 予想収穫量（主食用）

予想収穫量（主食用）は、14万3,300t（前年産との差：+5,000t）が見込まれる。

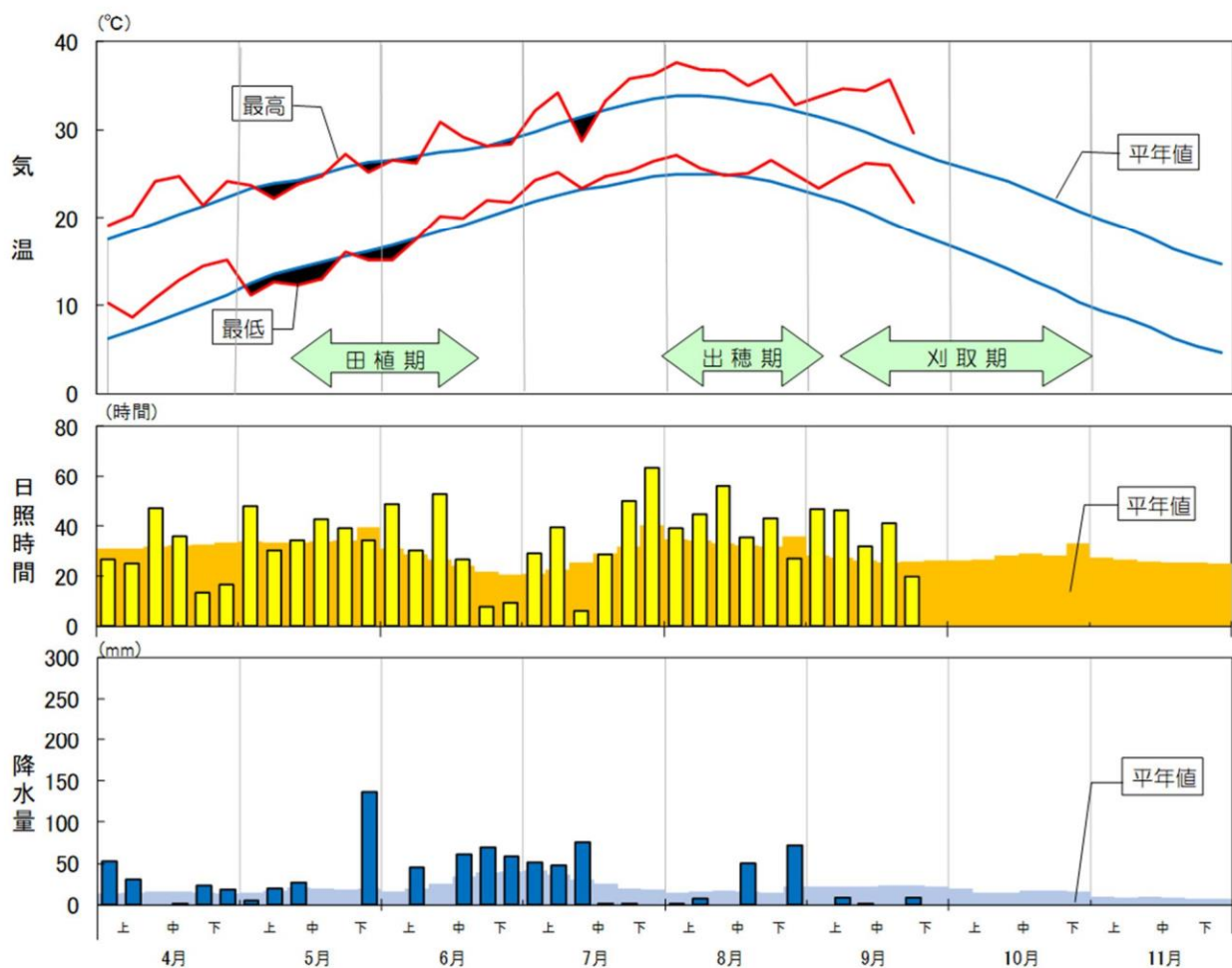
図4 作柄表示地帯別 10a 当たり予想収量及び作況指数（9月25日現在）



◎ 累年データ

区 分	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
岡山県 平成26年産	33,300	32,600	493	160,700	31,100	153,300	94
27	32,600	31,000	505	156,600	29,600	149,500	96
28	32,400	30,400	533	162,000	29,200	155,600	101
29	32,200	30,100	544	163,700	29,100	158,300	103
30	31,900	30,200	517	156,100	29,400	152,000	98
令和元	31,500	30,100	517	155,600	29,300	151,500	98
2	31,200	29,800	505	150,500	28,900	145,900	95
3	30,900	28,800	524	150,900	27,900	146,200	99
4	30,500	28,100	524	147,200	27,100	142,000	99
5	30,100	27,800	514	142,900	26,900	138,300	99
6 (概数値)	29,700	..	527	..	27,200	143,300	100

◎ 半旬別気象図（観測地点：岡山市）



4 広島県

(1) 作付面積

作付面積（青刈り面積を含む。）は2万1,700ha（前年産との差：△500ha）が見込まれる。

うち主食用作付面積は2万100ha（前年産との差：△400ha）が見込まれる。

(2) 作柄概況

6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分げつが抑制され穂数は「やや少ない」となった。穂数がやや少ないことによる補償作用等により、1穂当たりもみ数は「やや多い」となり、全もみ数は「平年並み」となった。7月下旬以降も気温及び日照時間が平年を上回って推移しており、登熟は「やや良」が見込まれる。

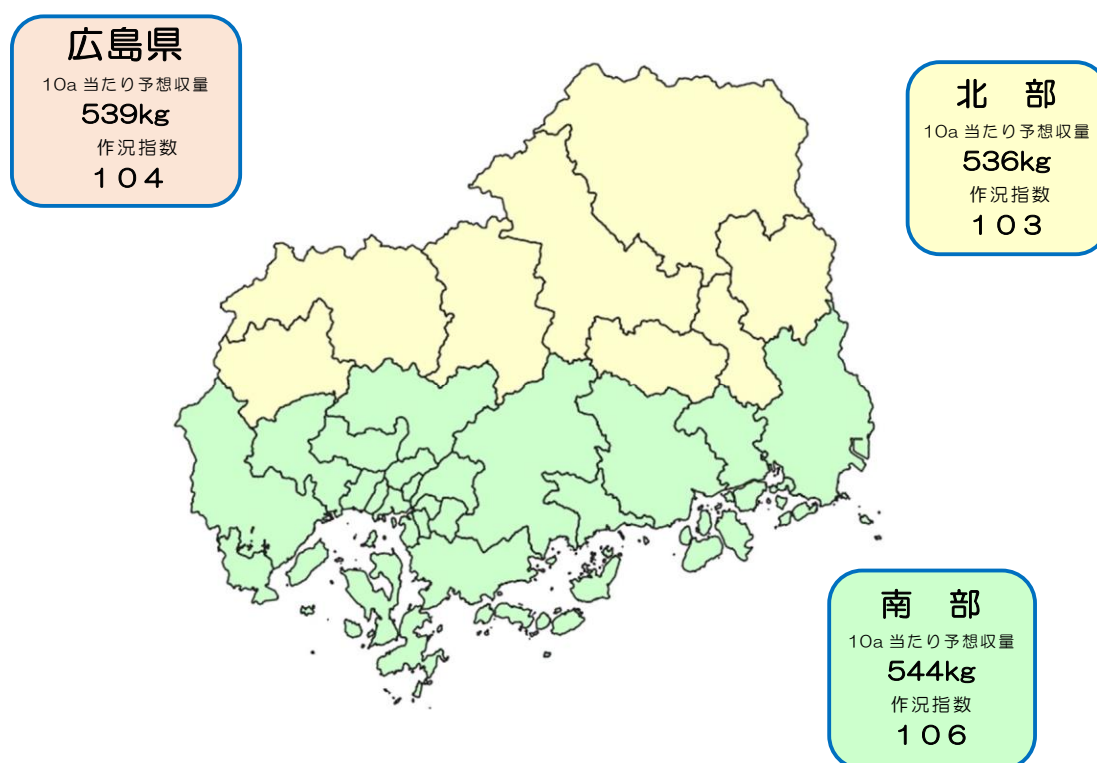
9月25日現在における10a当たり予想収量は539kg（前年産との差：+4kg）、作柄表示地帯別では、南部で544kg（前年産との差：+11kg）、北部で536kg（前年産並み）が見込まれる。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は104の「やや良」、作柄表示地帯別では、南部は106の「良」、北部は103の「やや良」が見込まれる。

(3) 予想収穫量（主食用）

予想収穫量（主食用）は、10万8,300t（前年産との差：△1,400t）が見込まれる。

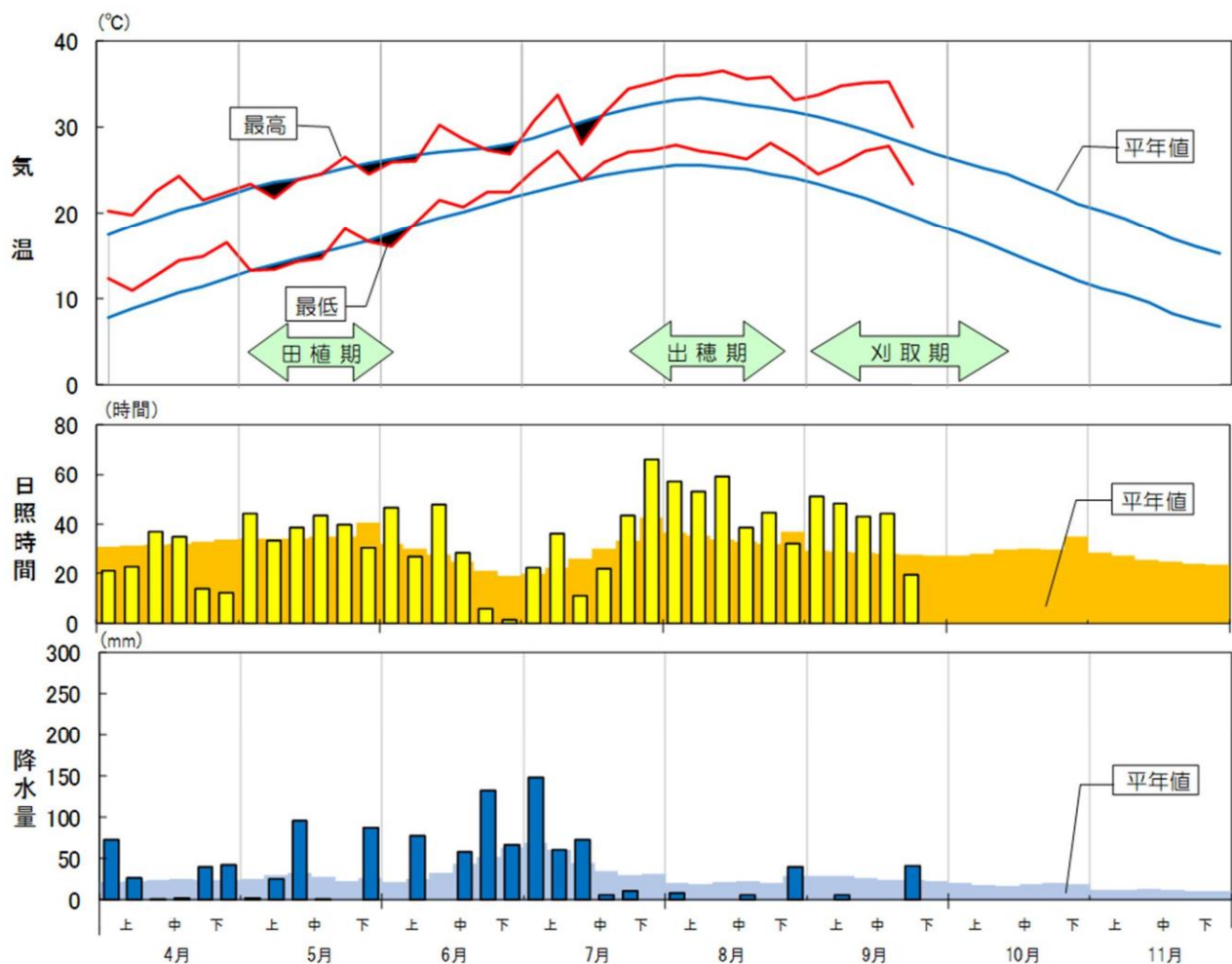
図5 作柄表示地帯別 10a 当たり予想収量及び作況指数（9月25日現在）



◎ 累年データ

区 分	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha				t	
広島県 平成26年産	26,000	25,600	497	127,200	24,800	123,300	95
27	25,500	24,700	507	125,200	24,000	121,700	96
28	25,100	24,100	531	128,000	23,400	124,300	102
29	24,800	23,700	534	126,600	23,100	123,400	102
30	24,400	23,400	525	122,900	22,900	120,200	101
令和元	23,600	22,700	499	113,300	22,200	110,800	95
2	23,400	22,600	499	112,800	22,000	109,800	94
3	23,200	22,200	522	115,900	21,700	113,300	99
4	22,800	21,600	530	114,500	21,100	111,800	101
5	22,200	21,100	535	112,900	20,500	109,700	103
6 (概数値)	21,700	..	539	..	20,100	108,300	104

◎ 半旬別気象図（観測地点：広島市）



5 山口県

(1) 作付面積

作付面積（青刈り面積を含む。）は1万8,300ha（前年産との差：△300ha）が見込まれる。

うち主食用作付面積は1万5,800ha（前年産との差：△200ha）が見込まれる。

(2) 作柄概況

6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分けつが抑制され穂数は「やや少ない」となった。7月上旬から8月上旬の気温がおおむね平年を上回って推移したことや、穂数がやや少ないことによる補償作用により、1穂当たりもみ数は「多い」となり、全もみ数は「やや多い」となった。8月中旬以降も気温及び日照時間が平年を上回って推移しているものの、全もみ数がやや多いことによる相反作用もあり、登熟は「平年並み」が見込まれる。

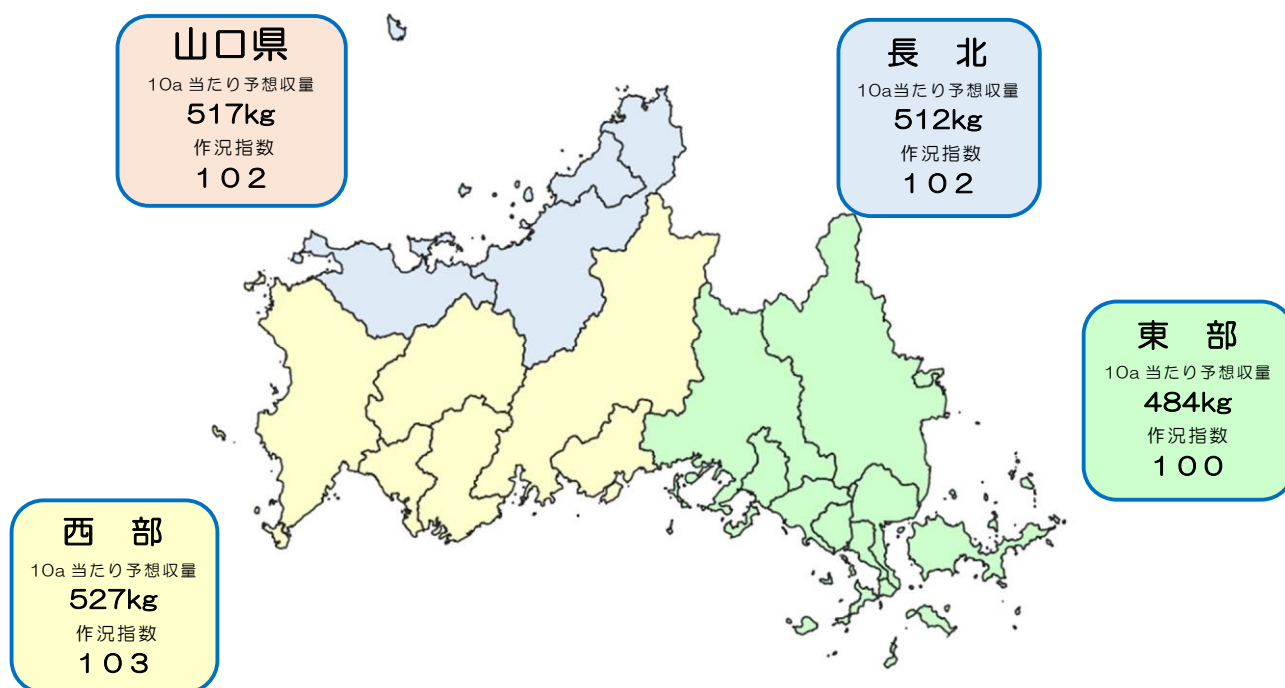
9月25日現在における10a当たり予想収量は517kg（前年産との差：＋7kg）、作柄表示地帯別では、東部で484kg（前年産との差：＋5kg）、西部で527kg（同：＋7kg）、長北で512kg（同：＋4kg）が見込まれる。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は102の「やや良」、作柄表示地帯別では、東部は100の「平年並み」、西部は103の「やや良」、長北は102の「やや良」が見込まれる。

(3) 予想収穫量（主食用）

予想収穫量（主食用）は、8万1,700t（前年産との差：＋100t）が見込まれる。

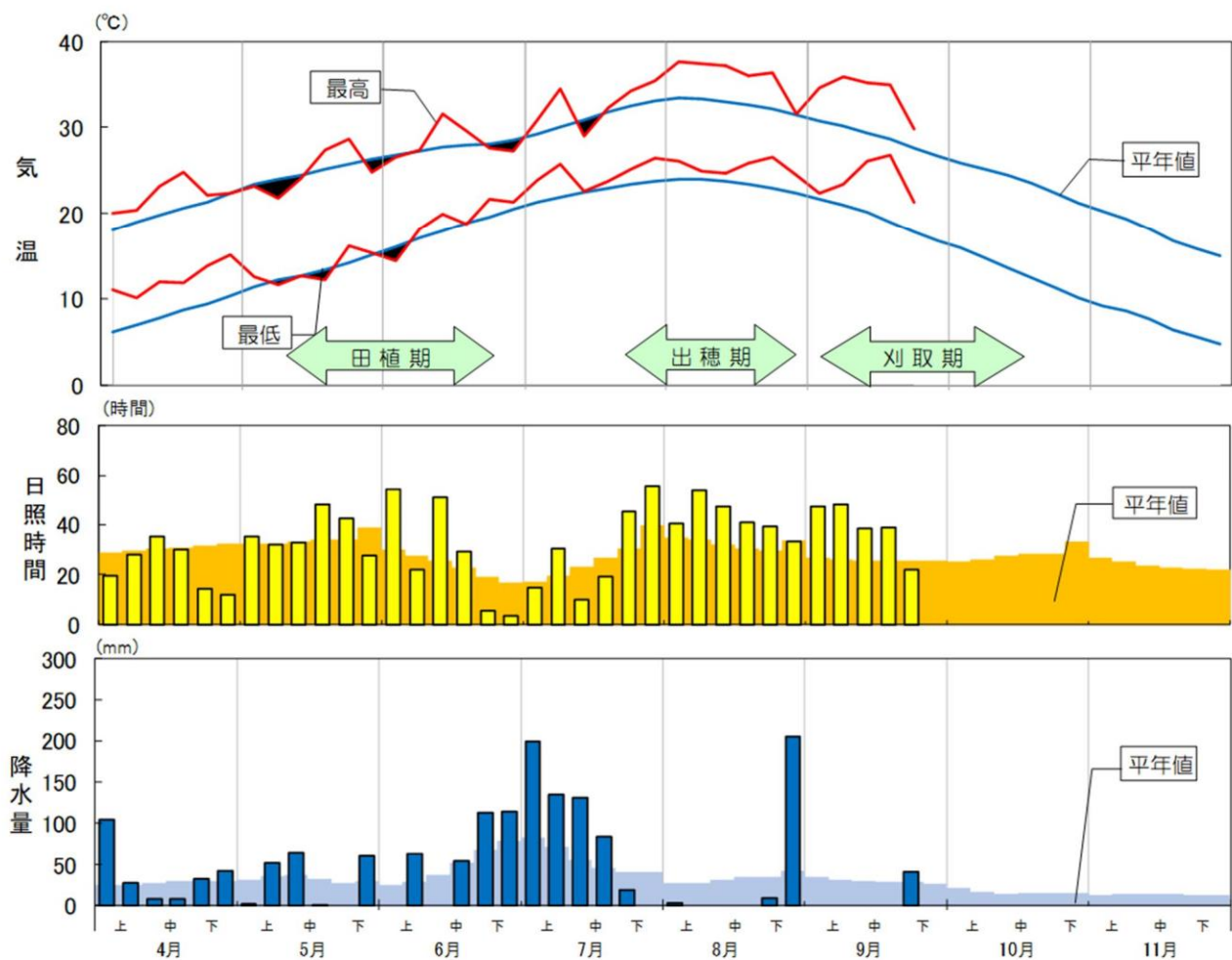
図6 作柄表示地帯別 10a 当たり予想収量及び作況指数（9月25日現在）



◎ 累年データ

区 分	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
山口県 平成26年産	22,800	22,300	483	107,700	21,500	103,800	96
27	22,400	21,600	491	106,100	20,500	100,700	97
28	22,000	21,000	512	107,500	19,800	101,400	102
29	21,500	20,300	521	105,800	19,300	100,600	103
30	21,000	19,800	522	103,400	18,900	98,700	104
令和元	20,500	19,300	474	91,500	18,400	87,200	94
2	20,100	18,900	386	73,000	17,800	68,700	73
3	19,700	18,400	506	93,100	17,400	88,000	101
4	19,100	17,600	526	92,600	16,600	87,300	105
5	18,600	17,100	510	87,200	16,000	81,600	103
6 (概数値)	18,300	..	517	..	15,800	81,700	102

◎ 半旬別気象図（観測地点：山口市）



6 徳島県

(1) 作付面積

作付面積（青刈り面積を含む。）は1万800ha（前年産との差：△200ha）が見込まれる。

うち主食用作付面積は9,790ha（前年産との差：+310ha）が見込まれる。

(2) 作柄概況

徳島県の9月25日現在における10a当たり予想収量は470kg（前年産との差：+1kg）、作況指数は100の「平年並み」が見込まれる。

作柄表示地帯別では、10a当たり予想収量は北部で476kg（前年産との差：△3kg）、南部で453kg（同：+12kg）が見込まれる。また、作況指数は北部で100の「平年並み」、南部で99の「平年並み」が見込まれる。

【早期栽培】

4月下旬の日照時間が平年を下回ったことや、4月下旬から5月中旬の気温が平年を下回って推移したことにより、分けつが抑制され穂数は「少ない」となった。6月上旬以降おおむね気温が平年を上回ったことや、穂数が少ないことによる補償作用により、1穂当たりもみ数は「やや多い」となったものの、全もみ数は「少ない」となった。全もみ数が少なかったことによる補償作用に加え、7月下旬以降、気温及び日照時間が平年を上回って推移したため、登熟は「やや良」となった。以上の結果、10a当たり収量は454kg（前年産との差：+4kg）となった。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は99の「平年並み」となった。

【普通栽培】

5月中旬の気温や6月下旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分けつが抑制され穂数は「やや少ない」となった。6月下旬から7月上旬の気温がおおむね平年を上回って推移したものの、6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったため、1穂当たりもみ数は「平年並み」となり、全もみ数は「平年並み」となった。7月下旬以降も気温及び日照時間が平年を上回って推移しており、登熟は「やや良」が見込まれる。

9月25日現在における10a当たり予想収量は480kg（前年産との差：△1kg）が見込まれる。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は101の「平年並み」が見込まれる。

(3) 予想収穫量（主食用）

予想収穫量（主食用）は、4万6,000t（前年産との差：+1,500t）が見込まれる。

図7 作柄表示地帯別 10a 当たり予想収量及び作況指数（9月25日現在）

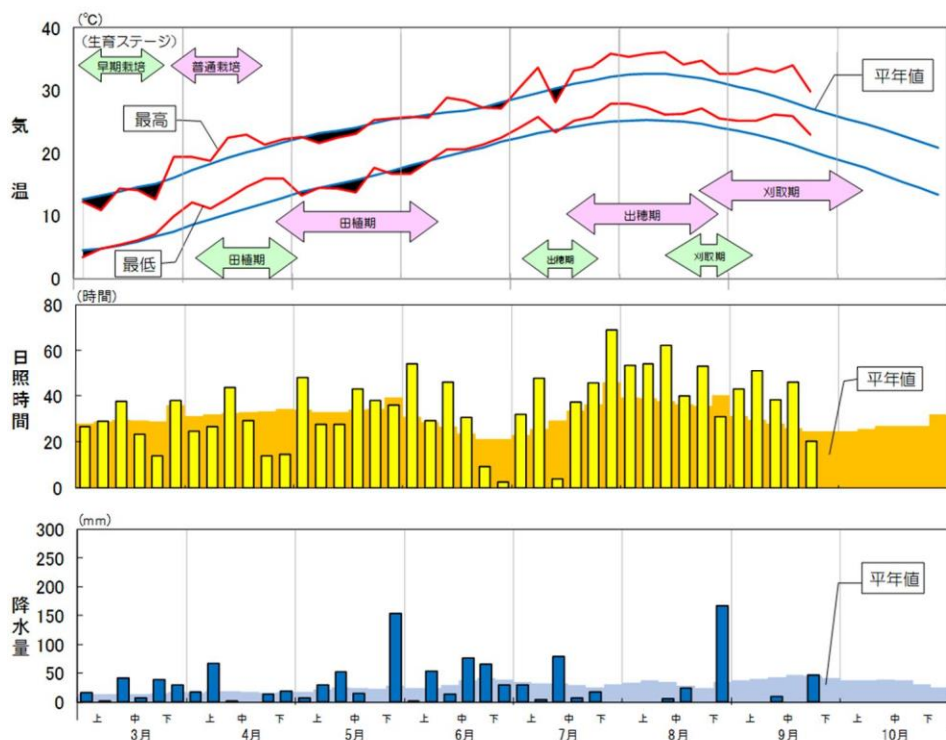


◎ 累年データ

区 分	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a当たり 収 量	収穫量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
徳島県 平成26年産	13,500	13,200	452	59,700	12,800	57,900	95
27	13,100	11,900	457	54,400	11,700	53,500	97
28	12,700	11,700	490	57,300	11,500	56,400	104
29	12,500	11,500	480	55,200	11,300	54,200	101
30	12,200	11,400	470	53,600	11,200	52,600	99
令和元	12,000	11,300	464	52,400	11,000	51,000	98
2	11,700	11,000	476	52,400	10,700	50,900	100
3	11,400	10,300	465	47,900	9,980	46,400	98
4	11,200	9,910	480	47,600	9,640	46,300	102
5	11,000	9,750	469	45,700	9,480	44,500	99
6 (概数値)	10,800	..	470	..	9,790	46,000	100
早期栽培 平成26年産	5,310	5,200	448	23,300	...	...	97
27	5,130	4,580	450	20,600	...	...	97
28	5,000	4,470	480	21,500	...	...	104
29	4,960	4,450	481	21,400	...	...	104
30	4,830	4,400	466	20,500	...	...	101
令和元	4,730	4,340	456	19,800	...	...	98
2	4,680	4,260	453	19,300	...	...	98
3	4,480	3,930	455	17,900	...	...	98
4	4,430	3,780	473	17,900	...	...	102
5	4,400	3,750	450	16,900	...	...	97
6 (概数値)	4,350	..	454	..	...	...	99
普通栽培 平成26年産	8,210	8,020	454	36,400	...	...	95
27	7,970	7,340	461	33,800	...	...	96
28	7,710	7,180	497	35,700	...	...	104
29	7,530	7,080	479	33,900	...	...	100
30	7,340	7,000	474	33,200	...	...	99
令和元	7,250	6,940	470	32,600	...	...	98
2	7,050	6,710	492	33,000	...	...	102
3	6,940	6,400	472	30,200	...	...	98
4	6,720	6,120	485	29,700	...	...	101
5	6,610	6,010	481	28,900	...	...	101
6 (概数値)	6,410	..	480	..	...	...	101

注：「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。（以下同じ。）

◎ 半旬別気象図（観測地点：徳島市）



7 香川県

(1) 作付面積

作付面積（青刈り面積を含む。）は1万400ha（前年産との差：△300ha）が見込まれる。

うち主食用作付面積は9,770ha（前年産との差：△330ha）が見込まれる。

(2) 作柄概況

6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分けつが抑制され穂数は「やや少ない」となった。7月上旬及び7月下旬の気温及び日照時間が平年を上回ったことにより、1穂当たりもみ数は「平年並み」となり、全もみ数は「平年並み」となった。

8月上旬以降も気温及び日照時間が平年を上回って推移しているものの、登熟は「平年並み」が見込まれる。

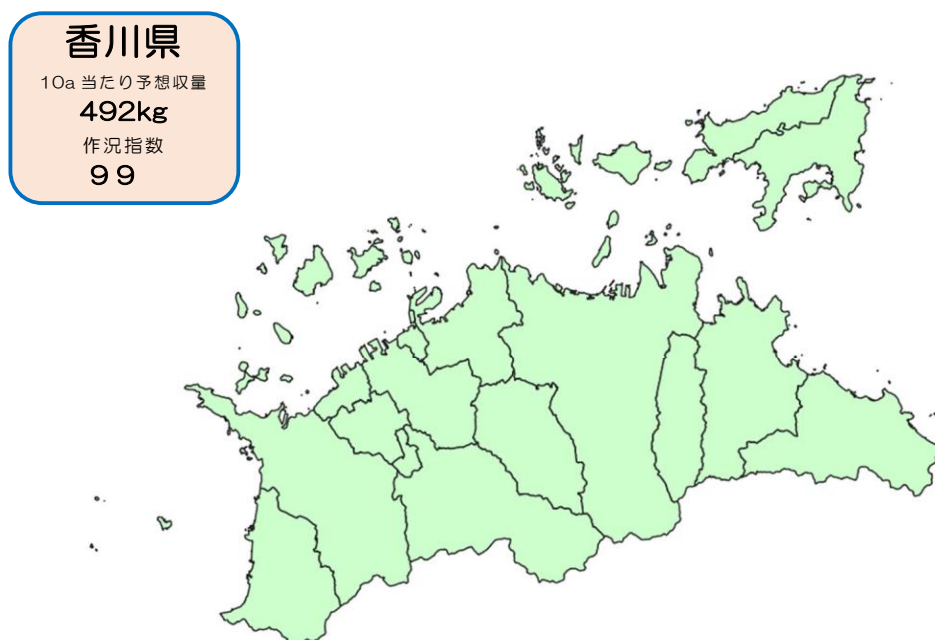
9月25日現在における10a 当たり予想収量は492kg（前年産との差：△4kg）が見込まれる。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は99の「平年並み」が見込まれる。

(3) 予想収穫量（主食用）

予想収穫量（主食用）は、4万8,100t（前年産との差：△2,000t）が見込まれる。

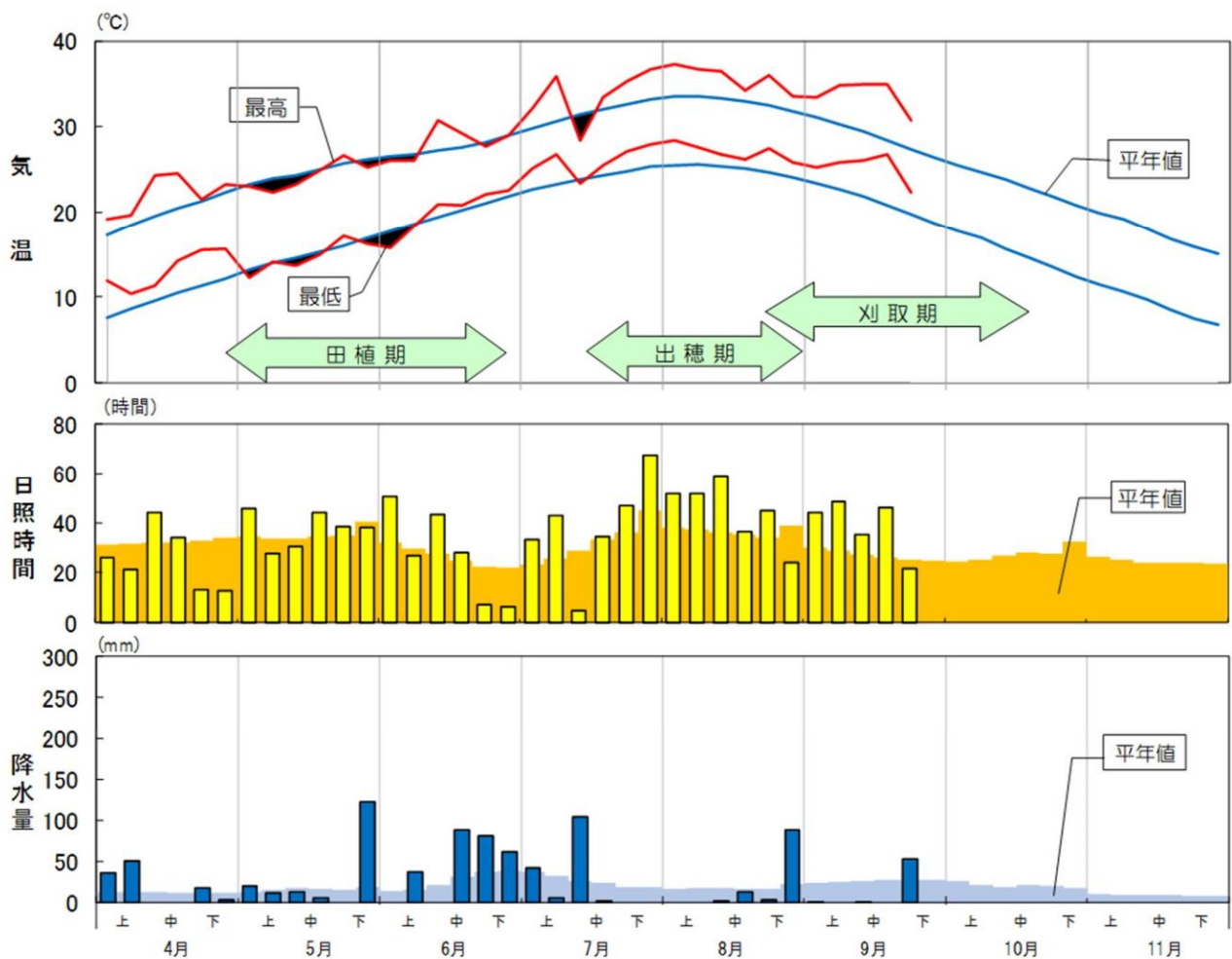
図8 作柄表示地帯別 10a 当たり予想収量及び作況指数（9月25日現在）



◎ 累年データ

区 分	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
香川県 平成26年産	14,500	14,400	468	67,400	14,200	66,500	94
27	14,000	13,600	470	63,900	13,500	63,500	94
28	13,700	13,200	508	67,100	13,200	67,100	102
29	13,200	12,800	484	62,000	12,800	62,000	98
30	12,800	12,500	479	59,900	12,500	59,900	96
令和元	12,300	12,000	471	56,500	12,000	56,500	95
2	11,900	11,700	496	58,000	11,600	57,500	100
3	11,600	11,300	501	56,600	11,300	56,600	101
4	11,200	10,900	511	55,700	10,800	55,200	103
5	10,700	10,200	496	50,600	10,100	50,100	101
6 (概数値)	10,400	..	492	..	9,770	48,100	99

◎ 半旬別気象図（観測地点：高松市）



8 愛媛県

(1) 作付面積

作付面積（青刈り面積を含む。）は1万3,300ha（前年産との差：△100ha）が見込まれる。

うち主食用作付面積は1万2,700ha（前年産との差：△100ha）が見込まれる。

(2) 作柄概況

6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分げつが抑制され穂数は「やや少ない」となった。7月上旬及び7月下旬の気温及び日照時間が平年を上回ったことや、穂数がやや少ないことによる補償作用により、1穂当たりもみ数は「やや多い」となり、全もみ数が「平年並み」となった。8月上旬以降も気温及び日照時間が平年を上回って推移しており、登熟は「やや良」が見込まれる。

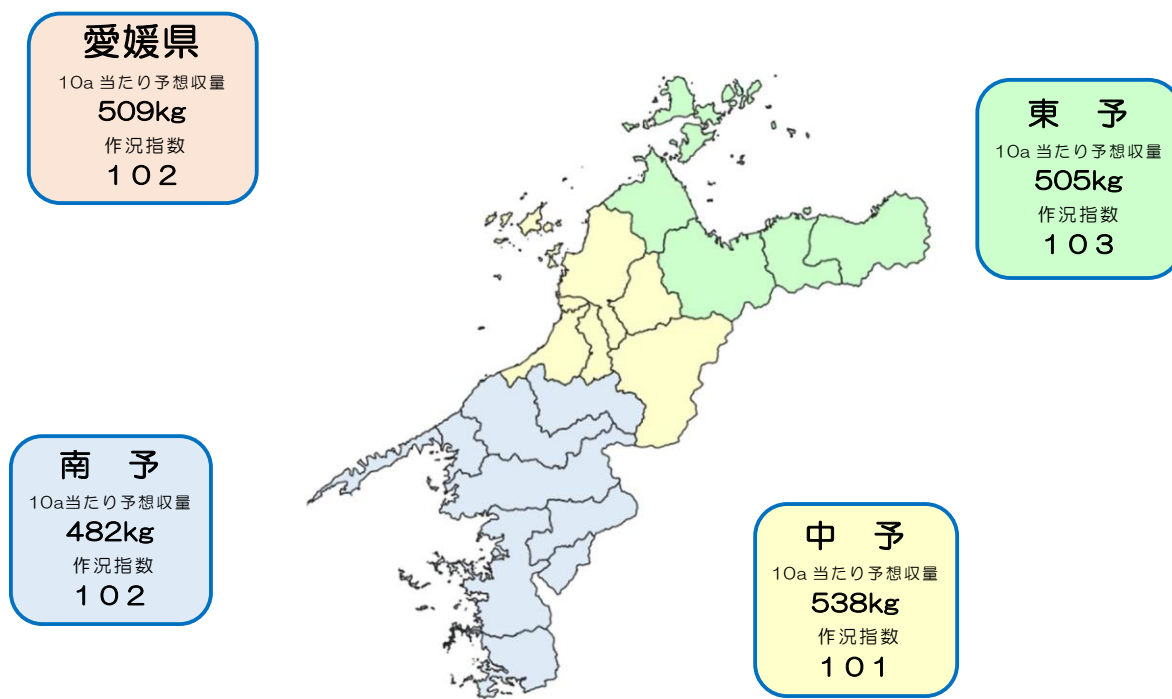
9月25日現在における10a当たり予想収量は509kg（前年産との差：＋4kg）、作柄表示地帯別では、東予で505kg（前年産との差：△2kg）、中予で538kg（同：＋16kg）、南予で482kg（同：△2kg）が見込まれる。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は102の「やや良」、作柄表示地帯別では、東予は103の「やや良」、中予は101の「平年並み」、南予は102の「やや良」が見込まれる。

(3) 予想収穫量（主食用）

予想収穫量（主食用）は、6万4,600t（前年産並み）が見込まれる。

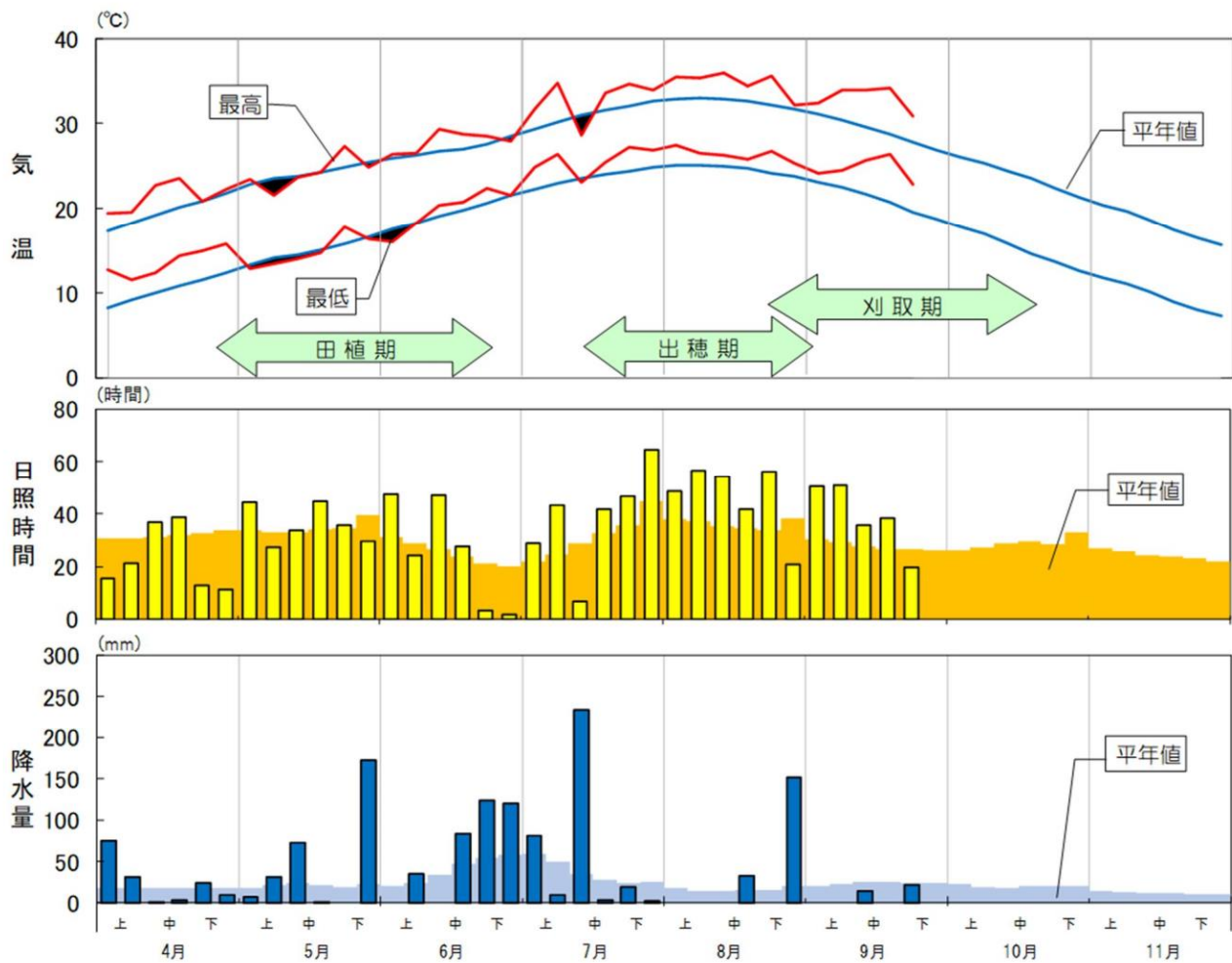
図9 作柄表示地帯別 10a 当たり予想収量及び作況指数（9月25日現在）



◎ 累年データ

区 分	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
愛媛県 平成26年産	15,200	15,000	490	73,500	14,900	73,000	98
27	15,000	14,600	488	71,200	14,600	71,200	98
28	14,700	14,200	508	72,100	14,200	72,100	102
29	14,500	13,900	508	70,600	13,900	70,600	102
30	14,400	13,900	498	69,200	13,900	69,200	100
令和元	14,000	13,600	470	63,900	13,500	63,500	94
2	13,800	13,400	474	63,500	13,300	63,000	91
3	13,700	13,200	510	67,300	13,200	67,300	104
4	13,500	13,100	524	68,600	13,000	68,100	104
5	13,400	12,800	505	64,600	12,800	64,600	103
6 (概数値)	13,300	..	509	..	12,700	64,600	102

◎ 半旬別気象図（観測地点：松山市）



9 高知県

(1) 作付面積

作付面積（青刈り面積を含む。）は1万1,600ha（前年産との差：△200ha）が見込まれる。

うち主食用作付面積は1万100ha（前年産との差：△100ha）が見込まれる。

(2) 作柄概況

高知県の9月25日現在における10a当たり予想収量は460kg（前年産との差：+6kg）、作況指数は101の「平年並み」が見込まれる。

作柄表示地帯別では、10a当たり予想収量は中東部で483kg（前年産との差：+8kg）、西部で422kg（同：+1kg）が見込まれる。また、作況指数は中東部で102の「やや良」、西部で99の「平年並み」が見込まれる。

【早期栽培】

気温は4月中旬から下旬が平年より高く、日照時間は4月下旬が平年を下回ったが5月上旬から中旬は平年を上回り、穂数は「平年並み」となった。6月中旬から下旬にかけても気温は平年並みに推移したことから1穂当たりもみ数は「平年並み」となり、全もみ数は「平年並み」となった。7月上旬以降、気温及び日照時間がおおむね平年を上回って推移したため、登熟は「やや良」となった。以上の結果、10a当たり収量は487kg（前年産との差：+2kg）となった。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は102の「やや良」となった。

【普通栽培】

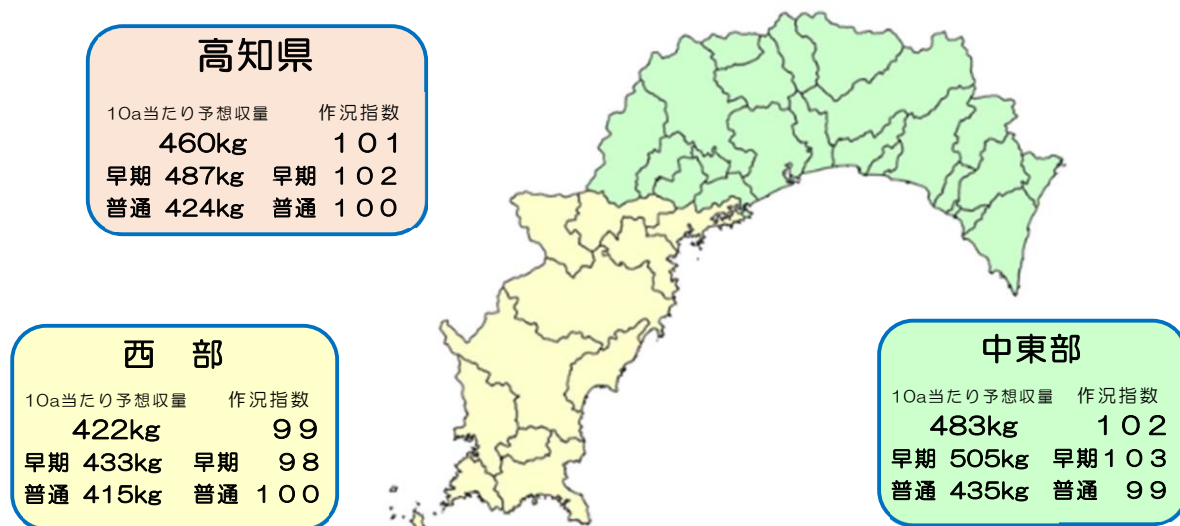
6月下旬及び7月中旬の日照時間が平年を下回ったことにより、分けつが抑制され穂数は「少ない」となった。7月下旬以降、気温及び日照時間が平年を上回って推移したことや、穂数が少ないことによる補償作用により、1穂当たりもみ数は「多い」となったものの、全もみ数は「やや少ない」となった。8月下旬の台風第10号の影響による大雨等があったものの、9月以降は気温及び日照時間が平年を上回って推移しており、登熟は「平年並み」が見込まれる。9月25日現在における10a当たり予想収量は424kg（前年産との差：+9kg）が見込まれる。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は100の「平年並み」が見込まれる。

(3) 予想収穫量（主食用）

予想収穫量（主食用）は、4万6,500t（前年産との差：+200t）が見込まれる。

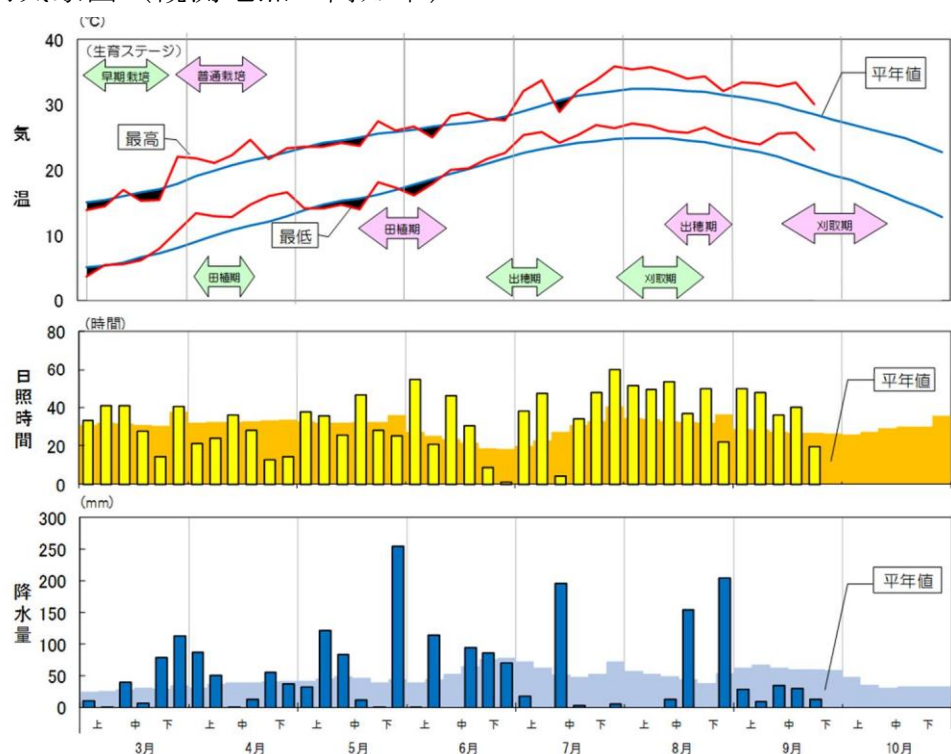
図10 作柄表示地帯別10a当たり予想収量及び作況指数（9月25日現在）



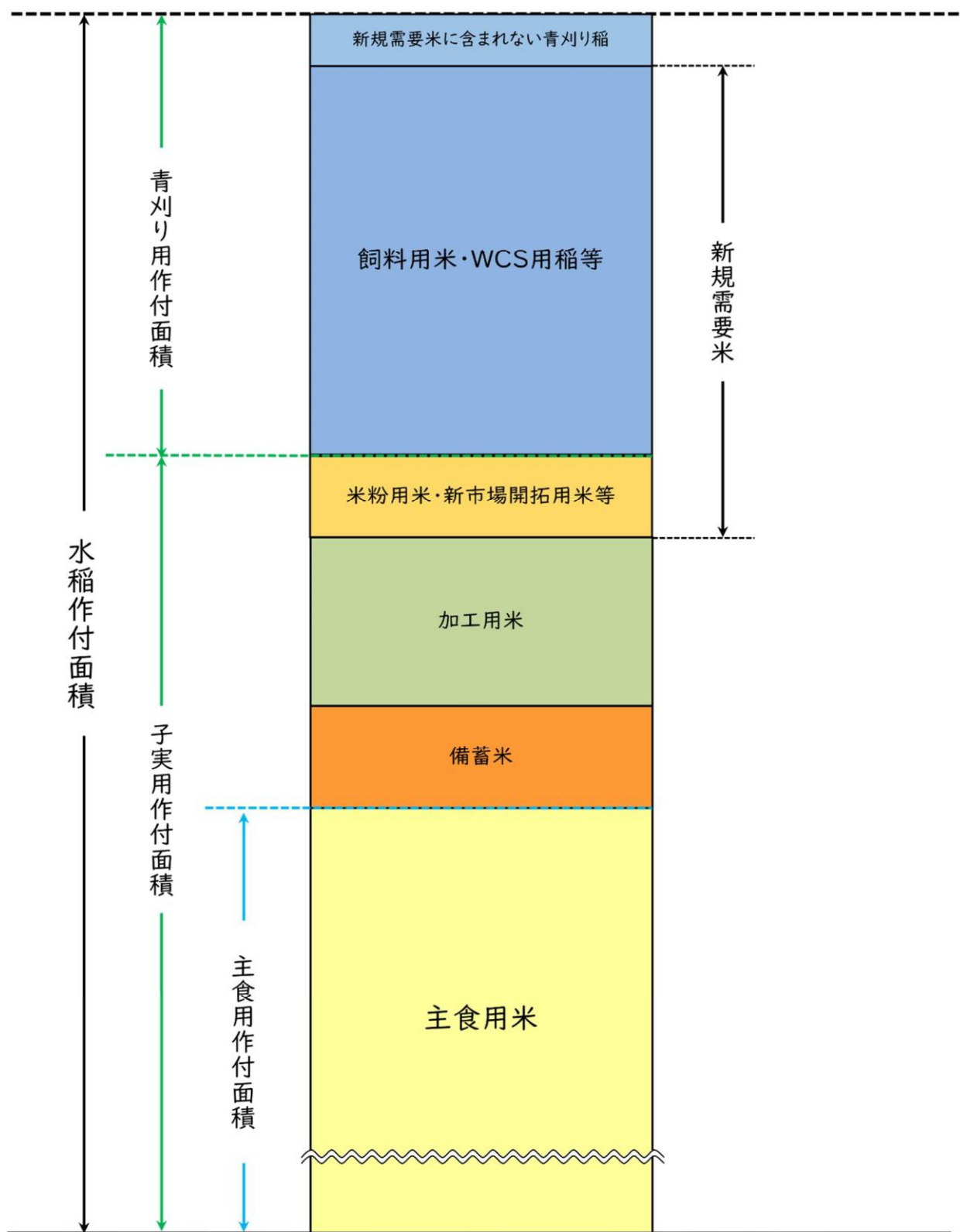
◎ 累年データ

区 分	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
高知県 平成26年産	13,300	12,700	438	55,600	12,700	55,600	95
27	13,100	12,000	444	53,300	11,900	52,800	96
28	12,900	11,800	458	54,000	11,600	53,100	100
29	12,800	11,600	471	54,600	11,500	54,200	103
30	12,600	11,500	441	50,700	11,400	50,300	96
令和元	12,500	11,400	420	47,900	11,300	47,500	91
2	12,400	11,300	433	48,900	11,200	48,500	93
3	12,300	11,000	451	49,600	11,000	49,600	98
4	12,100	10,800	460	49,700	10,600	48,800	100
5	11,800	10,300	454	46,800	10,200	46,300	100
6 (概数値)	11,600	..	460	..	10,100	46,500	101
早期栽培 平成26年産	7,760	7,400	470	34,800	...	...	98
27	7,560	6,750	462	31,200	...	...	96
28	7,400	6,580	481	31,600	...	...	101
29	7,370	6,500	498	32,400	...	...	104
30	7,310	6,470	465	30,100	...	...	97
令和元	7,240	6,440	455	29,300	...	...	95
2	7,180	6,380	454	29,000	...	...	94
3	7,090	6,190	475	29,400	...	...	98
4	7,020	6,010	488	29,300	...	...	101
5	6,870	5,770	485	28,000	...	...	101
6 (概数値)	6,740	..	487	..	...	...	102
普通栽培 平成26年産	5,520	5,330	393	20,900	...	...	91
27	5,580	5,290	420	22,200	...	...	97
28	5,530	5,180	428	22,200	...	...	100
29	5,410	5,060	435	22,000	...	...	101
30	5,340	5,000	411	20,600	...	...	96
令和元	5,290	4,980	375	18,700	...	...	87
2	5,250	4,950	407	20,100	...	...	93
3	5,200	4,850	420	20,400	...	...	98
4	5,100	4,750	425	20,200	...	...	100
5	4,900	4,550	415	18,900	...	...	99
6 (概数値)	4,900	..	424	..	...	...	100

◎ 半旬別気象図（観測地点：高知市）

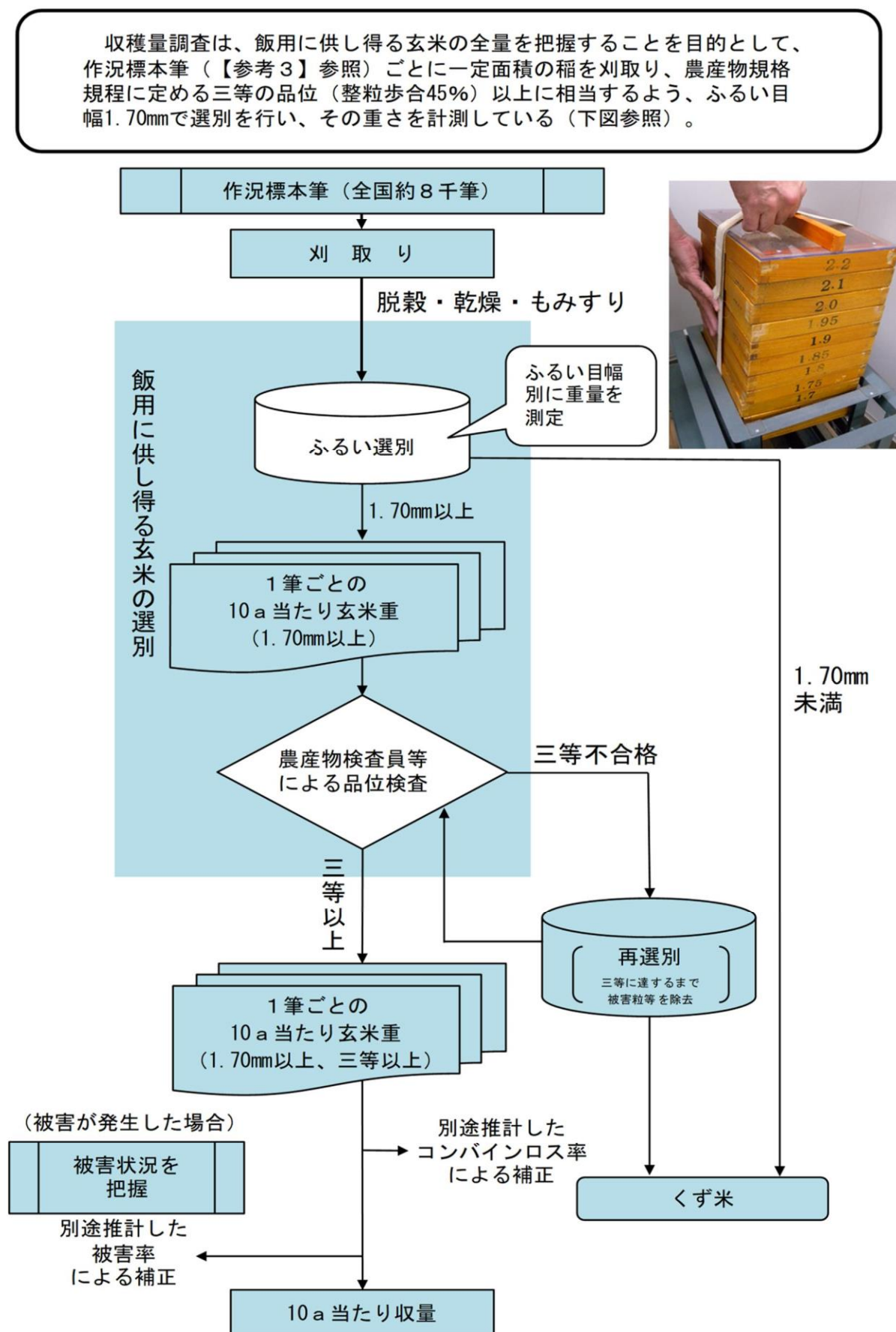


水稻作付面積の概念図



【参考 2】

収穫量調査の流れ

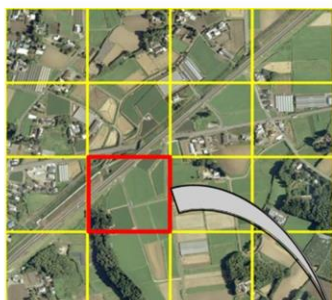


【参考 3】

作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場^{ふで}を筆と呼ぶ。）は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（全国で約8千筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



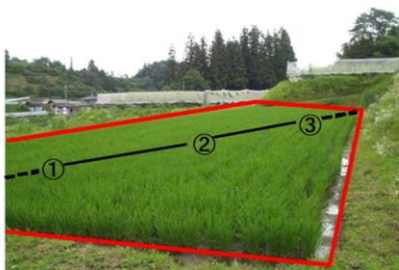
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（全国で約8千筆）



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【統計表】

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files/data?sinfid=000040188540&ext=xls>

【調査の概要】

・面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

・作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

（補足）

調査対象数、作況指数の算出に用いるふり目幅、各県の作柄表示地帯に関する情報は上記の【統計表】の末尾に掲載しています。

【水稻調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 本資料は中国四国農政局ホームページ「統計情報」の次のURLからご覧いただけます。
<https://www.maff.go.jp/chushi/info/index.html>
- ・ 本資料のうち、作付面積は概数値であり、確定した詳細な数値は、農林水産省ホームページに掲載（令和7年2月予定）します。
- ・ 次回（10月25日現在）の公表は、令和6年11月中旬の予定です。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

病害虫に関する情報：農林水産省＞組織別から探す＞消費・安全局＞病害虫の防除に関する情報

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/>

※ 上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予防事業による病害虫の発生予測等について掲載しています。

なお、「植物防疫年報」として公開している病虫害の発生面積は病虫害の発生予測の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行っている作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

各都道府県の生育状況等：米ネット（公益社団法人米穀安定供給確保支援機構）＞
水稻の生育状況・技術情報リンク集

<https://www.komenet.jp/linkshuu/suitolink/>

お問合せ先

◎本統計調査結果について

中国四国農政局 統計部 生産流通消費統計課

電話：086-224-4511(代表) 内線 2744、2741、2740

時間外直通電話：086-222-4450

◎農林水産統計全般について

中国四国農政局 統計部 統計企画課

電話：086-224-4511(代表) 内線 2721、2727

時間外直通電話：086-224-9426



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



SAFF

データの力で。
農林水産統計
Statistics of Agriculture,
Forestry and Fisheries

5年に1度の一斉調査

2025年農林業センサス（令和7年2月1日現在）を実施します。

調査期間

令和6年12月中旬～令和7年2月末 農林業経営体調査

令和7年1月中旬～令和7年2月末 農山村地域調査（市区町村調査）

令和7年10月上旬～令和7年12月末 農山村地域調査（農業集落調査）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いいたします。

また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



農林業センサス

農林業センサス 2025

